



Dalian Representative Office

## 大連駐在員報告



# 中国のコンビニエンスストアの動向

### はじめに

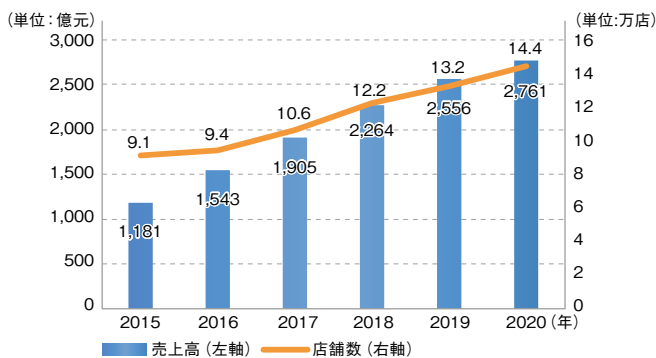
中国コンビニ市場は、2020年時点で売上高2,761億元（約5兆円、1元＝18円換算）、店舗数14・4万軒に達し、2015年と比べ、売上高は2・3倍、店舗数は1・6倍に増加しており、中国経済の発展とともに大きく成長してきました。【図1】

当初は、コンビニといえば軽食や日用品を購入する単なる小売店でしたが、競争や技術革新による新サービス等により、身近でより魅力的な存在へと変化したように感じられます。

### 日系コンビニについて

1996年に日系コンビニとして中国上海に初出店したローソンをはじめ、セブンイレブン、ファミリーマートの日系大手コン

図1 中国のコンビニ売上高、店舗数推移



出所：中国チェーン店経営協会 (China Chain Store & Franchise Association)

図2 2020年 中国のコンビニ店舗数ランキング

| 順位 | 店名       | 店舗数    |
|----|----------|--------|
| 1  | 易捷       | 27,600 |
| 2  | 美宜佳      | 22,394 |
| 3  | 昆仑好客     | 20,212 |
| 4  | 天福       | 5,808  |
| 5  | ローソン     | 3,256  |
| 6  | ファミリーマート | 2,967  |
| 7  | セブンイレブン  | 2,387  |
| 8  | 十足、之上    | 2,358  |
| 9  | 見福       | 2,021  |
| 10 | 便利蜂      | 2,000  |
| ⋮  | ⋮        | ⋮      |
| 95 | ミニストップ   | 137    |

出所：中国チェーン店経営協会 (China Chain Store & Franchise Association)

ビニ3社は、1990年代後半から中国事業を展開しています。ローソンは上海に加えて重慶や成都といった内陸部の中核都市を中心とする西南地域、セブンイレブンは北京や天津の大都市エリア、ファミリーマートは上海を中心とする華東地域と各ブランドとも異なるエリアで展開しており、3社とも店舗数トップ10に

ランクされています。【図2】  
日本でも馴染みのある大連市（遼寧省）には2011年にローソンが初出店し、周辺地域を含めて現在249店を展開しています。遼寧省の省都である瀋陽市においても店舗数を増加させており、東北地域を重要な市場と位置付けています。



## 日系と中国系の「コンビニ」比較

中国のローソンも日本のローソンと同じように、弁当、パン、デザート等PB商品が豊富で日本アニメとのコラボ商品やおもちゃ等、バラエティ豊かなラインナップとなっており、日本と中国メーカーの商品が同程度の割合で陳列されているのが特徴です。

また、求めるクオリティが高く、採用のハードルは非常に高い

■ 写真1 中国のローソンの陳列商品



■ 写真2 中国系コンビニの陳列商品



と思われるが、PB商品の材料に日本から調達した原料を使用したり、期間や店舗限定で日本各地の特産品を販売したりするなど、常に顧客に飽きられないよう商品開発や新商品の導入が行なわれています。商品陳列は余裕のある配置で全体的に商品が見やすく取りやすいよう工夫されています。[写真1]

一方、中国系コンビニでは、PB商品が少なく大半が中国

メーカーの商品です。おもちゃや限定商品等、目新しい商品はあまり見られず、1つの棚に密集して陳列されている印象を受けます。[写真2]

## おわりに

日系コンビニは中国系コンビニに比べて、現時点では商品種類や品質、店舗運営等、多くの点において優位性があるように感じ

ます。来客数や店舗数の伸びながらも消費者の支持や期待の高さが窺えます。

一方で、2017年に北京で創業した便利蜂(中国系コンビニ)は、ビッグデータを活用した商品管理や省人化等、先進技術を駆使した新形態のコンビニとして注目を集め、急速に規模を拡大しています。中国市場で持続的に成長していくためには、消費者ニーズの変化に対応したサービスや、利便性の高い技術の導入が求められるでしょう。

福岡銀行の海外駐在員事務所では、市場調査、現地進出、ビジネスマッチング等、海外ビジネスに関する各種ご相談を承っておりますので、お気軽にお取引店までお問い合わせ下さい。

2021年12月21日現在  
(大連駐在員事務所 益野 裕至)